



平成28年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年7月6日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9414 URL <http://www.bs11.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 齋藤 知久
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営戦略局長 (氏名) 平山 直樹 (TEL) 03 (3518) 1900
 四半期報告書提出予定日 平成28年7月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年8月期第3四半期の業績 (平成27年9月1日～平成28年5月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年8月期第3四半期	7,462	13.5	1,666	9.3	1,667	12.8	1,135	20.2
27年8月期第3四半期	6,572	14.1	1,524	15.3	1,477	12.8	944	△4.9
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
28年8月期第3四半期	63.80		—					
27年8月期第3四半期	53.08		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年8月期第3四半期	15,078	13,956	92.6
27年8月期	14,942	13,087	87.6

(参考) 自己資本 28年8月期第3四半期 13,956百万円 27年8月期 13,087百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年8月期	—	0.00	—	15.00	15.00
28年8月期	—	0.00	—		
28年8月期(予想)				17.00	17.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 平成27年8月期の期末配当金15円00銭には、東京証券取引所市場第一部指定記念配当金1円50銭が含まれております。

3. 平成28年8月期の業績予想 (平成27年9月1日～平成28年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,200	15.1	2,000	2.0	2,000	4.6	1,350	11.0	75.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年8月期3Q	17,802,832株	27年8月期	17,802,832株
② 期末自己株式数	28年8月期3Q	94株	27年8月期	94株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年8月期3Q	17,802,738株	27年8月期3Q	17,802,738株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料2ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新興国経済の減速の影響などが懸念される中、国内の雇用・所得環境は改善傾向が見られるなど、基調としては緩やかな回復傾向で推移いたしました。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の割合は全世帯の71.7%（「BS世帯普及率調査」(株)ビデオリサーチ調べ）で推移しており、またBSデジタル放送事業を含む衛星放送メディア分野の広告費は前年比で1.5%の伸長、中でもBS放送の広告費は、前年比で4.0%増と堅調に推移しております（「2015日本の広告費」(株)電通調べ）。

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで人々に感動を与え、幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として、「豊かで癒される教養・娯楽番組と中立公正な報道・情報番組を発信し『価値ある時間』を約束します」との経営ビジョンに基づき、良質な番組制作に引き続き邁進いたしました。

平成27年10月の番組改編では、古地図を片手に日本全国の謎に迫る『尾上松也の古地図で謎解き！につぼん探究』、アニメ・ゲームなどの情報番組『アニゲー☆イレブン！』の放送を開始いたしました。さらに平成27年10月には『JOCジュニアオリンピックカップ第34回全日本ジュニアバドミントン選手権大会』を放送するなど引き続きスポーツコンテンツの充実を図りました。このほか、地方自治体とのコラボ施策として、平成27年12月に『夢をのせて 熱気球 大空へⅢ～空の勇者たちの熱き闘い～2015 佐賀インターナショナルバルーンフェスタ』を放送いたしました。

平成28年4月の番組改編では、『報道ライブINSIDEOUT』をリニューアル、日本が元気な社会になるために必要な情報をお届けする新たな報道番組として生まれ変わりました。また昭和という激動の時代を駆け抜けたスター達を当時の貴重な映像とともにお届けする『あのスターにもう一度逢いたい』、旅先での人情や出会いをお届けする『人情ふれあい いいなあ日本』、メジャー競技を始めとしてマイナー競技も幅広く取り上げ、スポーツの奥深さと醍醐味をお伝えする『中畑清 熱血！スポーツ応援団』の放送を開始いたしました。さらに平成28年4月には、地方放送局とのコラボ施策の一環として京都放送との共同製作『京都 夜桜 生中継 春らんまんの醍醐寺から』や、今年で創業400年を迎えた有田焼の魅力をお伝えする特別番組『有田焼創業400年 人間国宝井上萬二 新たな創造と挑戦』を放送いたしました。

また、BS初登場の『大都会 闘いの日々』、韓流時代劇の大作『王の女』、その他話題の作品にこだわったドラマ編成等が、売上増加に寄与いたしました。

費用面につきましては、引き続き番組関連費用等の効率的なコントロールに努めながら、番組宣伝のための施策として、全国紙・地方紙への広告出稿を戦略的に実施したほか、平成28年4月改編に向け首都圏主要駅への看板掲出など、様々な媒体を活用した広告宣伝施策を実施いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は7,462,254千円（前年同期比13.5%増加）となりました。営業利益は1,666,350千円（前年同期比9.3%増加）、経常利益は1,667,120千円（前年同期比12.8%増加）、四半期純利益は1,135,882千円（前年同期比20.2%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ135,791千円増加し、15,078,072千円（前事業年度末比0.9%増加）となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金が164,937千円増加したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ733,049千円減少し、1,121,929千円（前事業年度末比39.5%減少）となりました。主な要因は、未払法人税等が230,743千円、流動負債のその他が549,545千円減少したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ868,841千円増加し、13,956,142千円（前事業年度末比6.6%増加）となりました。この要因は、利益剰余金が前事業年度の期末配当金267,041千円の支払により減少したものの、四半期純利益1,135,882千円の計上によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年8月期の業績予想につきましては、平成27年10月7日付の「平成27年8月期 決算短信」で公表しました業績予想から変更ありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第3四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得する建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第3四半期累計期間において、四半期財務諸表への影響額はありません。

(3) 追加情報

(法人税等の税率の変更による繰延税金資産の金額の修正)

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月31日に公布され、平成28年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産の計算に使用する法定実効税率は、従来の32.26%から、平成28年9月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異等については30.85%に、平成30年9月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等については30.62%に変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額が3,147千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が同額増加しております。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年8月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,131,997	6,205,419
受取手形及び売掛金	1,499,318	1,664,255
番組勘定	91,213	75,280
その他	170,547	90,734
貸倒引当金	△100	△100
流動資産合計	7,892,978	8,035,591
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,491,749	2,435,939
土地	4,034,756	4,034,756
その他(純額)	307,287	347,945
有形固定資産合計	6,833,793	6,818,641
無形固定資産	18,799	18,192
投資その他の資産	196,710	205,647
固定資産合計	7,049,303	7,042,481
資産合計	14,942,281	15,078,072
負債の部		
流動負債		
買掛金	228,031	287,710
未払法人税等	514,300	283,556
その他	1,040,621	491,075
流動負債合計	1,782,953	1,062,343
固定負債		
退職給付引当金	41,074	42,822
その他	30,951	16,763
固定負債合計	72,026	59,586
負債合計	1,854,979	1,121,929
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,183,198	4,183,198
資本剰余金	3,516,989	3,516,989
利益剰余金	5,387,209	6,256,050
自己株式	△96	△96
株主資本合計	13,087,301	13,956,142
純資産合計	13,087,301	13,956,142
負債純資産合計	14,942,281	15,078,072

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年5月31日)
売上高	6,572,673	7,462,254
売上原価	3,087,805	3,382,673
売上総利益	3,484,868	4,079,580
販売費及び一般管理費	1,960,090	2,413,230
営業利益	1,524,777	1,666,350
営業外収益		
受取利息	778	720
その他	919	695
営業外収益合計	1,697	1,415
営業外費用		
支払利息	1,334	645
休止固定資産減価償却費	18,907	—
上場関連費用	28,600	—
営業外費用合計	48,843	645
経常利益	1,477,631	1,667,120
特別利益		
受取補償金	—	23,940
特別利益合計	—	23,940
特別損失		
固定資産除却損	19	—
特別損失合計	19	—
税引前四半期純利益	1,477,612	1,691,060
法人税、住民税及び事業税	379,770	511,197
法人税等調整額	152,893	43,981
法人税等合計	532,663	555,178
四半期純利益	944,949	1,135,882

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。